

山下柔道の神髄

柔道の山下泰裕氏が外務省の招待でワシントンを訪れた。柔道を通じ日本の文化や価値観を米国側に広く伝えるという目的で、到着してすぐの21日夕、ワシントン中心部にある日本広報文化センターで「礼」柔道における尊敬と規律」と題する講演をした。会場には100人ほどの聴衆が集まり、世界無敵を誇り、1984年のロサンゼルス五輪で優勝した覇者が自分の人生と柔道について語るのに熱心に耳を傾けた。

山下氏は柔道の心について「単に勝つだけでなく、戦う相手への尊敬の念を保つことだ」と述べ、「相手がいるからこそ自分が戦えるのだと思うべきだ」と強調した。同氏はさらに「柔道の心を人生に生かし、人間的成長に寄与させることが大切だ」とも説いた。

柔道の国際化、脱日本化については山下氏は「米国のテレビ関係者から柔道では選手が感情をあまり出さないこと、用語がすべて日本語であることが一般への広がりへの障害になっていると告げられたが、この2点とも日本の柔道の精神を守るためには譲ることはできない」と断言した。



現役時代は「国際試合に勝ち、日の丸が掲揚され、君が代を歌えるのが最高だと思っていた」という日本への強い帰属意識を保ち続けた山下氏、講演終了後は米国人の文字どおり老若男女から多様な質問を受けた。その後、山下氏の東海大学の紫牟田武徳、稲葉将太両助手が柔道の技を実演し、米国人の観客をどよめかせた。(古森義久)